

○ 令和6年度普及指導活動の外部評価結果公表資料

項目		内容等
趣旨		<p>効果的・効率的に普及指導活動を実施するためには、幅広い視点から客観的な評価を受け、得られた評価により、普及指導計画の検証及び改善を図ることが重要である。</p> <p>このため、先進的な農業者や関係機関、学識経験者等を含めた委員による外部評価を行い、評価結果を公表するとともに、次年度以降の普及指導計画に反映するものとする。</p>
評価方法		普及指導活動の実施状況（普及指導計画の策定、普及指導活動の経過及び実績、成果目標の達成状況等）を評価する。
実施時期		令和7年3月17日(月)13:30~16:30
実施場所		HOTEL グランデはがくれ(佐賀市天神2丁目1-36)
外部評価委員		7名(先進的農業者、若手農業者、女性農業者、農業関係団体、学識経験者、民間企業)
評価課題数		6課題(各農業振興センター1課題×全6か所)
主な意見・評価	佐城農業振興センター	<p>終了課題</p> <p>○フランスパン用小麦「さちかおり」の高品質化による産地強化</p> <ul style="list-style-type: none"> タンパクの改善が出来て活動の成果が見える課題であると思う。しかし、それでもなお、著しく目標タンパク値から外れる農家もある。100%実践出来るように努力をしてもらいたい。その中では、今の状況では悪く言ってしまうと、肥料代や散布労賃を考えると穂揃い期追肥を入れない農家が得をする構図になっているのではないのか。この辺はカントリー組織内で、栽培をやめてもらうなどの一定のルールづくりが必要ではないのか。 実需者の声を生産者に直接伝えることが生産意欲につながっている。 普及指導活動、特に実需者との現地検討会の取組が良かった。 地域との連携がうまく取れている。 産地全体に刺激を与えられる課題戦略だと見受けられる。
	三神農業振興センター	<p>終了課題</p> <p>○集落営農法人の運営体制の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 発展段階ごとの、法人組織強化のための活動であったと思う。特に、「きざと」での意向調査で大豆のプール理解が得られたが、いざ協議では頓挫している。そこが合意形成の難しいところで、代替え案で解決に導く、振興センターの努力の跡が見て取れた。法人の合意に基づいて、成果目標の発展プラン作成し、実践の検証をして進めていくPDCAサイクルは理解できるが、露地野菜やイベントなどの追加事業実施の結果として、費用対効果などの経営的評価や法人自体のブランド価値の向上効果などにもしっかり触れて欲しかった。 集落営農からの法人の運営は本当に大変なところがあると思う。作業の共同化ができた点はよかったと思う。生産者の考えが変わってきたのはよかった。 プール化、共同作業への集落内理解をどう図っていくかが課題。 収穫体験などイベント等の取組が良かった
	東松浦農業振興センター	<p>終了課題</p> <p>○省力化・新技術の導入による露地みかんの拡大と担い手確保による産地力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 本課題は盛りだくさんで、活動内容の幅が広すぎると感じました。活動が忙しすぎて、果実品質分析などを外注する事態になっている。懸命の取り組みによって、活動の成果は出ているが普及課題としては、もっと間口を狭めて効率的に出来たら良かったと思う。永年性作物は、未収益期間が長い。このため新規就農が難しいが、継承園の引き継ぎで、早期独立が図れる「流れ」を示しており、他の産地でも活用出来る事例である。 新規参加者ができたことはよかったと思う。最後まで支援をお願いしたい。 みかんの産地をいかに維持していくか、担い手確保の手法など、JAと連携し取組まれ、特に第三者継承に踏み込まれ参考になった。 新規就農相談の体制づくりについてしっかりと取り組まれていると感じた。 まだまだ課題が多く今後の連携強化に期待したい。
	西松浦農業改良普及センター	<p>終了課題</p> <p>○温暖化に対応したモモ「さくひめ」の導入を核とした産地の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 梨農家の複合作目として低温要求量の低い桃、「さくひめ」の早期出荷加温体系導入メリットがよく分かる発表であった。冒頭に、計画前からのモモの品種構成と栽培者の戸数推移、また今後の「さくひめ」導入の期待値が示されていたらもっと、分かりやすかった。発表内容に混植型が示されていたが、新規導入者の誘導方策としては、「さくひめ」の早期出荷加温体系の位置づけを鮮明にして発表したほうが、振興センターの方向性がより明確となったと思う。 農家の方の作業管理などの意欲を改善された点がよかった。 加温時期による収益性の検討がよかった。また、数字で示されるのは説得力があった。 今後、より一層期待できる内容に仕上がっている。 新品種導入の難しさは大変だと思う

項目		内容等
主な意見・評価	杵島農業振興及センター 継続課題	<p>○生産技術と産地基盤強化による白石タマネギの復興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 労力補完システムについては、「規模拡大志向農家」にとっては、生命線となる問題である。そこに切り込んで成果を上げている点を評価したい。関係機関の総動員で取り組んでいる課題であり、ここで、農業振興センターは何を重点としてどのような活動内容で取り組んだかもっとしっかり述べてほしかった。また、タマネギなど季節的作業に対して、周年的な作業確保とマッチングは、町内のみでは完結が難しい面もあり、広域的かつ異業種も含めて検討する課題と思われる。その点みどり地区の他品目に目を付け連携を図っている点は課題解決のモデルとなり得る。 ・ 外国人労働者の方が佐賀に定住して仕事をしてもらいたい。他の野菜でも仕事ができ、またJA、町と一緒にやっている点良かった。 ・ 労働力支援の取組は、県内他地域においても非常に参考になるのではないかな。 ・ 特定外国人労働者の受け入れという時宜をとらえたテーマについての発表、非常に良かった。町内・県内の品目間リレーは良い取組だと思う。さらなる拡がりを期待したい。 ・ 特定外国人労働者のケアがメインになってくる。
	藤津農業振興センター 終了課題	<p>○うれしの茶産地をけん引するマネジメント能力のある青年農業者等の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 茶の世代交代期に来ているということだが、県内のどの品目にも取り入れられる課題である。青年農業者の育成の参考になる有効な事例となる。ライフプランは、青年のみでなく、家族全体で将来を見据えて同じ目標を持って取り組むところに意義がある。このような方向に誘導するに当たって、ツールなどが詳しく述べられているが、普及指導員としての動機付けのポイントや活動上難しかった点に力点を置いて纏められると、もっと分かりやすく参考になったと思う。 ・ 青年農業者の生産意欲をどうもっていくか。 ・ 経営発展計画の作成・振り返りが特徴的。 ・ 取組のフォーマット化が良いと感じた。 ・ 今後、もっと他のお茶農家に広めてほしい。 ・ 農家の経営観念に目を付けた点がいいと思う。
対応策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 普及指導計画の策定に当たっては、現状分析を十分に行い、問題点等の整理をした上で課題を設定し、課題ごとの到達目標やその目標達成に向けた活動内容・方法を盛り込み、より明確化するように努めたい。 ・ 今回の意見や助言等を踏まえ、より効果的で効率的な普及活動となるように努めたい。 ・ 普及指導活動の成果については、関係機関・団体等と連携し、民間の活力等も活用しながら広く波及するよう努めたい。